

平成25年度

事業計画書

公益財団法人として24年4月に新たなスタートを切りました。「公益財団」の名に相応しい一層の社会貢献をすべく、理念であるユースホステル運動の活性化や青少年の健全育成活動に積極的に取り組みます。また、新大阪のレストラン運営を含めた大阪市立青少年センター、羽衣青少年センター、貝塚の大阪府立少年自然の家では、地域における社会教育拠点としての機能を維持し、利用者の満足度を更に高める運営を目指します。

重点目標

1. ユースホステル運動の振興のための積極的な取り組み

日本ユースホステル協会の本部事務局を支援し、会員登録制度の維持、国際ユースホステル連盟との連携、広報活動などの業務代行など通じて、ユースホステル運動の振興と発展に積極的に取り組みます。

新大阪と大阪国際の両ユースホステルを拠点に活動推進するとともに利用者増を図ります。

2. 大阪府羽衣青少年センターの充実化

自立経営が軌道化した羽衣青少年センターは、施設機能の広報や営業により一層注力するとともに、大阪国際ユースホステルとの一体化をさらに進め、サービスの向上と利用者増を実現します。また、これまで以上に、青少年を始めあらゆる年代向けのイベントやプログラムの充実を図っていきます。

3. 大阪市立青少年センターの一体運営

文化ゾーンとユースホステルの受付・予約等日常業務を一体運営化し効率化を図るとともに、収益好転の兆しが見えてきた開業3年目のレストラン事業の自立への礎の一年にします。更に、青少年センターの経営基盤の強化と、一層の利用者満足度向上と社会教育的な事業の充実を図り、社会に真に必要な施設としてアピールしていきます。

4. 府立少年自然の家の魅力向上と利用者数目標の達成

プログラムの充実・職員スキルの向上・施設環境の整備・リーダー組織の育成・広報の強化等を行い、利用目的達成のための支援・積極的な事業展開を行ない、利用者数目標を達成します。

5. 活動拠点の拡大の研究と展開

新しい活動拠点作りのために指定管理施設の研究に努め、拠点としてふさわしい施設については積極的にその取得を目指します。

事業計画

1. 登録会員数の増強

(単位=人)

	平成25年度目標	平成24年度予測	対 比
大阪	3,800	3,800	100.0%
全国	41,000	41,000	100.0%

青少年を主体にした会員獲得対策の実施

- ・インターネットによるオンライン入会の推進
- ・パブリシティーを強化し広報活動を充実
- ・大学ユースホステルクラブを中心にした事業の展開と連携
- ・日本ユースホステル協会と連携した solo19(19歳対象の入会無料キャンペーン)の実施

2. ホステルの利用促進

(単位=泊)

	平成25年目標	平成24年予測	対 比
大阪	60,000	57,000	105.3%
全国※	390,000	375,000	104.0%

※(全国における数値は1月—12月の統計による)

- (1) それぞれの特性(立地・規模等)を活かしたホステルの魅力アップ
- (2) ホステル相互の情報交換と連携の推進
- (3) 海外にむけた情報の発信
- (4) マスコミを中心としたパブリシティー活動
- (5) 近畿ブロックユースホステル協議会と協調した利用促進の展開

3. ユースホステル運動に即した事業推進

(1) ホステリング事業・ウォーキング事業

① こどもひとり旅ホステリング 計15本

② 100キロウォークの実施(5月)

③ 第41回「伊勢迄歩講」の実施(12月)

④ 歩行検定など定例的なウォーキング事業の実施 計10本

(2) 会員サービスの事業・国際交流

- ① 旅行セミナー(年1回)と旅行相談会(月1回)の充実
- ② 外国人旅行者のためのインフォメーション活動
- (3) リーダーと指導者の養成
 - ① ボランティアリーダーのスキルアップのための研修会(4月)
 - ② 大学ユースホステルクラブとの連携・合同プロジェクト(9月)
- (4) その他
 - ① ジュニアインターン(小学校高学年～中学生)制度の実施(職業体験や、外国人宿泊客へのインフォメーション活動など)
 - ② 海外からの青少年の研修などを受け入れ
 - ・IJGDによるドイツ人ボランティアの受入れ(1年間4名)

4, ユースホステルの運営

	平成25年目標	平成24年予測	対 比
新大阪	20,500	18,800	109.0%
大阪国際	27,000	25,200	107.1%

(1) 新大阪ユースホステルの運営

- ・海外の学校団体及び個人ホステラーの誘致を積極的に強化
- ・世界ランキングNo.1の評価に再び挑戦
- ・コプラザ利用者との併用利用の推進
- ・青少年団体利用の促進とプログラムの充実
- ・国内・海外の修学旅行ニーズに対する積極的な展開
- ・宿泊者対象の自由参加型イベントの実施(年間約70本)
「たこやき体験」「ロビーコンサート」「浴衣着付け体験」等
- ・環境に配慮した施設運営

(2) 大阪国際ユースホステルの運営

- ・高石市と連携し、施設PRを積極的に実施
- ・近隣の企業や学校への営業活動
- ・各種合宿予約サイトへの登録で認知度アップを図る
- ・各種ニーズに対応した宿泊プランにより、新規団体利用の獲得
- ・近隣の方が参加しやすい地域密着型のイベント実施
- ・新予約ソフトの導入により、きめ細かい顧客管理の充実
- ・お客の声を反映した運営
- ・社会福祉活動の一環としてエコキャップ回収運動の強化
- ・より環境に配慮した施設運営

5, 青少年施設の運営

	平成25年目標	平成24年予測	対 比
大阪市立青少年センター (文化ゾーン)	200,000	195,000	102.6%
大阪府羽衣青少年センター	180,000	169,000	106.5%
大阪府立少年自然の家	96,000	94,000	102.1%

(1) 大阪市立青少年センター(愛称:KOKOPLAZA)

- ・ 青少年活動の拠点としてさらなる青少年の利用促進
- ・ レストラン事業のライブレストラン・アートショップ機能の強化
- ・ 文化ゾーン・宿泊ゾーンの受付・予約業務等の一体運営
- ・ 施設稼働率と費用対効果を見据ながら顧客ニーズに対応
- ・ 大阪市担当局との協働により、青少年育成事業の継続的な展開
 - ここぷらキッズ事業(こども居場所づくり)
 - 子育て支援事業(心の相談コーナー)
 - カルチャー教室支援事業
 - 青少年オーディション(情熱トランスミッション)
 - フォーラム事業
 - ジュニアダンスオペラ事業
- ・ 青少年活動の拠点として、提案型の自主事業を実施
 - ワークショップ事業(ゴスペル・PC講座) 15本
 - 地域密着イベント事業
(七夕・夏まつり・X'mas・年賀状コンテスト) 4本
 - 世代間交流事業(童謡喫茶) 10本
- ・ レストラン部門の自主イベント開催と魅力アップ
 - ライブ事業(青少年ライブ・プロライブ) 30本
 - ギャラリー事業 6本
 - イベント事業 12本
 - 季節限定メニューの充実

(2) 大阪府羽衣青少年センター

- ・ 25年度目標の180,000人利用を達成
- ・ 設備のリニューアル・整備と使いやすい施設運営による利用者満足度の向上
- ・ 炊さん場に設置した太陽光発電施設により、青少年への環境教育を導入。
- ・ 魅力的な自主事業(プログラム)の推進
 - こども対象事業 23本

- ファミリー対象事業 5本
- 一般向け体験プログラム 27本
- ・これまでの枠にとらわれない自主事業の開発・推進。

(3) 大阪府立少年自然の家

- ・ 共同事業体としての総合運営力の向上
- ・ 96,000人(宿泊56900人、日帰36100人)の利用目標達成
- ・ 学校教育現場との連携と利用促進
- ・ 提供プログラムの充実と利用者満足度の向上
- ・ ホームページの有効活用と情報発信機能の強化
- ・ 食育の推進と食事内容の充実
- ・ ボランティアリーダーの育成と活動場面の拡大
- ・ 障がい者の就労支援と人に優しい施設づくり
- ・ 青年の家等連絡協議会を中心に府下青少年施設と連携
- ・ 主催・自主事業の実施。
 - 里山自然遊び塾(家族対象・自然とのふれあい) 6本
 - フォレストジュニアクラブ(子ども対象・1泊) 6本
 - 長期自然体験キャンプ(こども・中高生対象) 2本
 - 知的障がい児支援事業(臨床動作法と乗馬体験) 2本
 - 指導者養成事業(ボランティア入門・ツリーイング) 3本
 - アドプトフォレスト事業 1本
 - 家族で遊ぼう焚き火事業 7本
 - 社会体育事業(ナイトハイキング・耐寒ハイク) 3本
 - 自然の家オープンデー・音の葉音楽祭 1本
- ・ 連携事業等の実施。
 - 「森の絵本をつくろう」(府教育委員会)
 - 「教志セミナー」(府教育委員会)
 - 「泉大津市子どもキャンプ」市町村との連携事業
 - その他ユースホステル協会・青少年活動財団との連携事業

以 上